

整理番号	29-2	事務事業名	市民農業講座事業		作成部署	経済部農政課	電話	内線853
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	池上 俊廣	課長職名	鈴木 康照	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	H15	根拠法令等	無し					
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	都市型農業の展開する中で、市民を対象に、農業に対する理解を深めてもらうため、農業講座を開講した。							

## 1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	力強い産業活動が展開されるまち		(第 6 章)
	節	農業		(第 1 節)
	施策	都市型農業の展開		(第 4 施策)
目的 (ここから成果指標を導きます)	対象 (誰、又は何を)	農業に理解を深めていこうとする市民。		
	意図 (何をねらっているのか。対象をどのような状態にしたいのか)	農的生活に対する市民ニーズに応えるため、高齢農業者などの知識と経験を活かし、農業に対する知識や実技を学び、市民農園等で活かせる知識を持ってもらう。		
手段 (ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	参加者延べ人数 32名 講座延べ回数 12回	
		17年度	参加者数 20名 講座回数 6回	

## 2 実施(ドウ)

## 【事業費の推移】

(単位:千円)

	区 分	15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財	60	57	60	60
	一般財源	200	200	130	130
	合 計	260	257	190	190
人件費 (概算)	人 数(年間)	0.35	0.25	0.25	0.25
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	3,150	2,250	2,250	2,250
総事業費 +		3,410	2,507	2,440	2,440

## 【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	農業講座申込み者数	20名	19名	20名	20名
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	講座修了者率	80%	80%	100%	100%
	(講座終了者/講座講申込み者数)	16名	16名	20名	20名
	サークル参加者数(団体数)		34名(1団体)	35名(1団体)	35名(1団体)
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	参加者1人あたりコスト	213千円	156千円	122千円	122千円
	総事業費/講座終了者数				

整理番号 29-2

### 3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等  
 農家の高齢化による遊休農地が増加する傾向の中で、市民農園として農地の有効活用を図るとともに、都市住民の農的生活に対するニーズは高まっていく。

#### 【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	本市の農業振興を図っていくためには、消費者が農業の役割を理解し、地元産の農産物を利用することは重要であることから、行政が積極的に関与する必要がある。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	サラリーマン層の定年帰農に対するニーズは高く、農業に対する技術講習を通じて、農業に理解を求めることは必要である。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	市民農園の一部を借りて実施しており、有効な手段を取っている。また、本講座の修了生が家庭菜園のサークル活動を行っており、サークル団体との協働での講座も考えられる。	圃場で栽培技術を身に付ける活動はサークル団体へ移行し、講座は机上のみへと転換することも検討する。
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	1人3千円の負担であり、適切である。	

#### 【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	参加者からも、さらに上級コースを望む声もあり、また講座終了生からサークル団体も育っており、農業に対し理解を深めている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	一人当たりの事業費単価が高く、やや非効率と考える。	圃場での実技指導を止め、机上講義のみとすることにより、効率性は高まる。

#### 【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

### 4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	講座を修了者した方が中心となって、家庭菜園のサークル活動を行っており、今後、サークル団体へ移行する方法も検討していく。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	講座修了者からサークル団体が生まれたことは、農業に親しみ、農業の役割の理解者拡大の成果であり、講座は今後も継続する。ただし、効率性の面からも今後の講座については、サークル団体との協働も視野に入れて検討すること。